

不燃ごみを7種9分別に

来年度から全市で実施

市では、ごみの減量と資源化を進めるため、家庭から出される不燃ごみの分別区分を6種9分別収集から7種9分別収集に見直す準備を進めています。来年度の早い時期からの本格実施に向けて、8月からは収集日が第2木曜日と第3木曜日の市内28自治会をモデル地区に指定し、新たな分別区分による不燃ごみ収集を行っています。

今後、課題や各自治会からの意見などの整理・検証を行い、市民の皆さんへ分かりやすくお知らせし、新しい分別が定着するよう努めていきます。▼ごみの分別に関するお問い合わせは、生活環境課（☎66・1005）へ。



▲自治会と住民の皆さんの協力のもと不燃ごみを分別（8月16日、今田地区）

主な変更点

- ① ペットボトルの単独分別収集
- ② プラスチック製の包装・袋を不燃ごみで分別収集
- ③ 食用びん類を3分別に簡素化



◆ペットボトルとプラスチック容器包装類は「無色透明な袋」に入れて出してください。



▲半透明の袋 ▲無色透明の袋

◆プラスチック容器包装類の袋にこんなものが入っていました。



容器包装ですが紙製です。マークを確認し、可燃ごみに出してください。

お願い

プラスチック製の使い捨て製品ですが、商品そのものであって、容器包装ではありません。その他埋立ごみに出してください。



インタビュー

モデル地区に選ばれたとき、自治会の皆さんに正確にお伝えできるか不安でしたが、説明会に参加してもらったり、ちらしを見たりしてもらいながら理解を深めてもらいました。

新たな分別区分では、PETマークとプラマークを確認して分別するので、多くの人が正しく出されています。モデル事業が始まる前から練習がてら新しい分別に取り組まれている世帯もありました。家庭では、小学4年生の子どもが、学校でゴミ問題を学習しているので、率先して手伝ってくれます。私や子どもが盛り上がっているので、その姿を見ている父親も「やらなきゃ」と意識しているようです。

説明会で初めて知ったのですが、近隣市町ではこのような分別は既に始まっているのに舞鶴だけまだだったのは驚きでした。皆さん仲間になって一緒に取り組みましょう。

古川自治会
会長：小西裕子さん（左）
副会長：西山 雅さん（右）



自治会からの主なご意見

- ① ペットボトルはPETマークを見れば確実に分かる。
- ② プラマークは「その他埋立ごみ」との区別が難しい。同じプラスチック製品でも商品を含んでいる容器包装と商品そのものである製品を区別する必要があり、区別がつかない時は、ごみ分別ルールブックの絵や写真を見て判断するほうが分かりやすい。
- ③ プラスチック製の包装や袋を分別することで、可燃ごみが減量できた。これまでは、45%の袋がいっぱいだったのが30%の袋でおさまり、15%がリサイクルできた。
- ④ 小学4年生だけでなく学校全体で分別見直しの学習に取り組んでほしい。生活に密着しているので、子ども達が学校で学んだことを家族みんなで楽しみながら実践できると思う。



▲PETマーク



▲プラマーク

広報クイズにお寄せいただいたご意見などを紹介

広報通信



7月号アンケート

「まいづるメール配信サービスを利用していますか？」で、市から気象情報や避難所・避難情報などをいち早くお知らせするメール配信サービスがどの程度浸透しているかを調査しました。

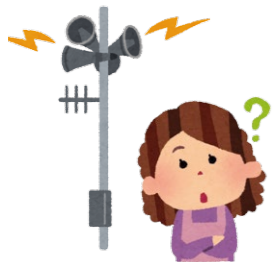
134人中101人が回答し、利用しているが42人（41歳）、利用していない59人（59歳）という結果でした。

現在の利用率は、8月末現在で人口81,032人のうち13,278人が登録しています。雨や風で防災行政無線や広報車の音が聞き取れない時でも、登録した携帯、スマホ、パソコンに即時配信しています。他にも、イベントや不審者、クマ出没、市政情報なども配信しています。

ぜひ登録してください（登録は右コードから）。



大雨警報発表か。気を付けよう！



8月号アンケート

「あなたの地域に移住者が引っ越してきたらどう思いますか？」で、市民の皆さんの意見をお聞きしました。

77人中、53人が回答し、歓迎するが49人（92歳）、特に何も思わないが2人（4歳）、その他が2人（4歳）でした。

《歓迎する》

◆自分も移住者なので舞鶴のおすすめを紹介したい。（30代女性ほか）

◆結婚を機に舞鶴に移り住んだので共感するところがあると思います。（40代女性）

◆特に若い人がたくさん移住して、まちが活性化してほしい。地域を元気にしていきたい。（40代男性ほか）

◆地域に馴染んで付き合いができる常識人なら歓迎する。（30代女性ほか）

⇒市では、移住の相談があった場合、市職員が空き家や地区を案内し、希望の地域へつないでいきます。移住希望者には、何度も地域を訪れてもらい、自治会役員との面談を行います。お互いがなじめるかどうかをじっくり時間をかけて確認しています。

《ご意見》

◆移住者を増やすことは単に人の取りあいです。移住者が来るといことは他の自治体で人口が減っているということ。子育て対策を考えるべき。

⇒市では、子育てしやすい環境づくりに向けた取り組みを重点施策のひとつとして進めています。子育て世代が交流でき、子育てに関して相談しやすい施設や体制を確保しているほか、幼稚園や保育所では、子どもの主体性を育む教育・保育を実践するなど、乳幼児教育の質の充実を進めています。こうした環境整備を図ることで、舞鶴に住んで子育てしてみたいと思っただけのような魅力あるまちの現実を目指しています。



◆舞鶴から転出する人への対策も同時にすべき。

⇒進学や就職で舞鶴を離れる若い世代や転勤などで転出する人が多いのが舞鶴の特徴です。

市としては、子どもの頃から舞鶴の良さに触れ、気付くことで舞鶴に誇りを持つ子どもを育てる教育をはじめ、就職を控えた高校生やU・I・Jターンを希望する人、仕事を探している人に対し、企業研究会や就職説明会を開催するなど、「住み続けたいまち」「住みやすいまち」と実感してもらえるようなまちづくりを進めています。

これらの取り組みは、すぐに成果が出るものではありませんが、舞鶴に住み続けたり、U・I・Jターン就職や退職後の定住につなげていきます。

